令和５年度　学校評価報告書（実施結果）

	視点	４年間の目標 （令和２年度策定）	１年間の目標	取　組　の　内　容		校　内　評　価		学校関係者評価 （２月 20 日実施）	総合評価（３月 13 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	自立と社会参加をめざし、一貫性・系統性のある「秦野らしい」教育課程の整備とそのしくみの確立、及び専門性維持向上のための取組を進める。	①小中高の一貫性・系統性の視点から教育課程の整備を完了する。 ②個別教育計画を活用した授業づくり・授業改善システムを継続しながら計画の評価への反映を模索する。	①これまで見直された各部門課程の教育目標や個別教育計画について一貫性・系統性の視点から検証する。 ②個別教育計画を踏まえた授業評価をもとに、一貫性・系統性の視点から評価の観点など統一的な評価を検討する。	①各部門課程の教育目標や個別教育計画について一貫性・系統性の視点から検証し、改善方策を見出せたか。 ②一貫性・系統性の視点から統一的な評価が検討され、次へつなぐことができたか	①各部門課程で教育目標や個別教育計画について一貫性・系統性の視点から検証し、教務係内で共有し、教育目標と個別教育計画のつながりを確認した。 ②年間指導計画のアンケートを実施し、作成や評価の観点を検討した。	①活用できる個別教育計画を作成するため、現行の「作成の手引き」を見直し、アセスメントの結果を反映させるなどの追加訂正について検討していく。 ②年間指導計画の作成や評価についての観点をまとめる必要がある。また、校外行事等についてのねらいを再確認し、マニュアルに反映させていく。	①新型コロナウイルスの収束後もコロナ禍以前の状態に戻すのではなく、新しい教育や生活が始まったことに対して、アセスメントの実施や地域に出ていくことについて一歩二歩と歩みを進めている。 ②グランドデザインの一貫した方針があり、それがグループ、各部門課程におりていることで、つながりのある支援となっている。	①教育課程の整備が進んだが、教科名の見直しなど引き続き検討が必要である。教育目標と個別教育計画のつながりがより明確になり、活用しやすくするために書式の改訂を行った。 ②年間指導計画の作成や評価の観点について全校で確認を行った。小中高の一貫性・系統性の視点からの検証はこれからであり、発達段階別、指導内容の全体像が分かり、次の学部へと引き継がれるような指導内容の検討が必要である。	①小中高の一貫性・系統性の視点から教育目標の見直しも進んだが、指導目標の精選と指導場面がわかりやすく個別教育計画の中に落とし込めるようにするためには、作成の手引きの見直しも行い、改善点をまとめ、より良いものとなるように検討をすすめていく必要がある。 ②年間指導計画を統一した書式で作成し、小学部から中学部、高等部への一貫性と系統性を意識した授業づくりにつなげていく。
2	（幼児・児童・） 生徒指導・支援	児童生徒の個性を尊重し、多様な教育的ニーズに配慮しながら、「自己実現」と「共生」をめざした指導・支援を組織的に行う。	①児童生徒の多様な教育的ニーズに対し、客観性・根拠に基づいた指導支援を全校的に継続して行う。 ②人材活用と学び合いを進め、専門性の一層の維持向上を推進する。	①アセスメントツール等による的確な実態把握に基づく学習支援をすべての部門課程で実践する。 ②専門職等との連携等とあわせて、人材活用の具体的な取組を各部門課程で進める。	①すべての部門課程でアセスメントツール等による的確な実態把握が行えたか。またそれを、目標設定や日々の指導に活かせたか。 ②人材活用が各部門課程で取り組むことができ、有効な指導・実践につながったか。	①すべての部門課程でアセスメントによる実態把握が行えるよう、各部門課程で検討し、アセスメントツールの準備を整えた。 ②夏季休業を活用し校内の人材を活用した効果的な研修を行った。また、ICT 体験会では係の教員全員がテーマに沿って教材研究を進め、講師を務めて研修会を実施した。	①アセスメントを実施するにあたっての確認事項や活用するための方法等を共有していく。 ②人材活用に引き続き取り組み、学び合いを進めて指導実践につなげていく。 PC 活用に関する小技を学校全体から収集し、ミニ研修会などで発信する。また、一人一台端末の活用に向けて ICT の係内で教材研究や実践を行い、その成果を実践報告会やホームページなどを通じて、学校内外に向けて発信を行っていく。	①アセスメントの実施方法についての研修を行い、再確認していることは評価できる。また、アセスメントの結果をいかに児童生徒に返していくかという点が最も重要である。引き続き児童生徒の発達段階に応じたアセスメントの検討と実施に期待している。 ②教員同士の学び合いの機会の設定や、専門職の活用による学習環境や指導方法改善の取り組みは評価できる。	①各部門課程ごとにアセスメントを実施し、児童生徒の実態把握に活かすことができた。今後さらに、アセスメントの結果を個別教育計画の指導目標と手立ての検討時や、授業改善に活用していきたい。 ②人材バンクの活用や発達段階に応じた教材紹介や教材共有の方法など、各部門課程ごとに工夫のある取り組みが見られた。今後さらに専門職の組織的な活用と連携により指導方法の検討や改善につなげていきたい。	①年間計画にアセスメントの実施の時期について明記し、計画的な実施と、実施の定着を図る。また、アセスメントの実施方法とその活用についての職員研修を実施し、理解を深めていく。 ②よりよい授業づくりのための人材活用ができるように、活用の実践報告会やホームページからの情報発信を行い、情報共有の機会を増やしていく。

	視点	４年間の目標 （令和２年度策定）	１年間の目標	取　組　の　内　容		校　内　評　価		学校関係者評価 （２月 20 日実施）	総合評価（３月 13 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
３	進路指導・支援	児童生徒一人ひとりの「夢の実現」や主体的な進路選択に向けて、障害特性や発達段階に応じた指導・支援を、保護者や関係機関との連携の下で進める。	①児童生徒、保護者が見通しを持てるような指導・支援を継続するとともに早期からの情報提供を充実する。 ②スポーツや文化活動等への取組をとおして、児童生徒の余暇活動の一層の充実を図る。	①キャリア・パスポートや個別教育計画の活用を継続とあわせて、小中学部の段階から積極的に情報発信に取り組む。 ②様々なスポーツへの関わりや文化活動等を経験する機会に積極的に参加する。	①本人・保護者の意向を聴き取り、児童生徒の自信や意欲につなげられたか。また、積極的な情報発信を実践できたか。 ②スポーツや文化活動等に対する児童生徒の興味・関心が持続・継続して高められる機会を確保できたか。	①小中学部の保護者向け進路学習会や卒業生の保護者による講話を実施予定。また、面談期間に進路専任による進路相談を実施し、情報提供を行った。 ②各部門課程ごとに工夫し興味関心に合ったスポーツや文化活動に取り組んだ。	①進路関係行事について、小中学部の保護者が積極的に参加できるように、担任からも参加を呼びかけていく。 ②パラスポーツの視点も取り入れながら交流・地域活用を進め、その様子をお便り等で保護者に発信し、児童生徒の余暇活動につなげていく。	①小中学部段階で保護者を対象とした進路学習の機会を設定しており素晴らしいことである。 ②高等部の生徒たちがスポーツに関心を持って大会に参加することはとても良いことである。スポーツを通して学び、自ら行動し、自分の気持ちを表現できるように、今後も生徒に寄り添った取り組みに期待する。	①小中学部の保護者に向け、進路の情報提供を係と進路専任が協力して推進し、関心を高めることができた。また、高等部においては、本人と保護者の就労意識を徐々に高めるとともに自己理解と意欲向上につなげることができた。 ②授業や昼休みに特体連の参加種目に取り組み仲間と運動をする楽しさを知り、いぶきタイムで文化活動に取り組んだ。	①今後も面談期間や進路学習会の機会を設定し、保護者の進路に対する意識や関心が継続するように情報提供に努めていく。高等部においては自己選択を尊重しつつ、本人にとって最善で永続的な就労環境に結び付くように細心の指導を継続していく。 ②スポーツや文化活動を通して生徒の余暇活動の選択肢が広がるように、新たな活動や発表の機会を検討していく。
４	地域等との協働	他者を尊重し、多様性を認め合う共生社会の実現に向けて、支援教育及びインクルーシブ教育を「地域とともに」推進する。	①地域の学校との交流及び共同学習の更なる推進とともに、以降の発展的取組の検討を進める。 ②病弱教育部門の移行・復学支援システムの一層の定着化を図る。	①地域の学校との交流及び共同学習の恒常化と併せて、課題を洗い出し発展させていく取組を行う。 ②システムに即して転出入事務を行うとともに卒後・復学後を見据えた学びの充実に継続して努める。	①地域の学校との交流及び共同学習を恒常的に実施できたか。また、課題の検討、発展を企図できたか。 ②移行・復学支援システムの一層の定着化を図ることができ、児童生徒の学びの連続性に寄与できたか。	①末広小との交流及び共同学習が進んでいる。恒常化を目指して学年同士が連絡を取り合い実践することができた。また、東小・東中との交流も進めることができた。 ②移行支援カンファレンスで関係機関との情報共有を重ね、適宜ケース会も行い移行への手順を確認した。	①重ねた実践の評価を共有し、その上で互いの教育課程、指導計画の中に明記していく。また、東小・東中との交流も持続可能なものとするため、両校の担当者間で次年度以降のビジョンも視野に入れた連携と打ち合わせを行っていく。 ②これまで重ねてきたカンファレンスやケース会の時期を整理し、制度的に必要な情報を収集し、卒業までの移行支援のスケジュールを整えていく。	①支援学校の授業に小学校の児童が参加するという授業ができたことは素晴らしい。また、肢体不自由部門と小学校とのオンライン交流など、オンラインであればできる交流もある。ぜひ交流校とその機会を広げてほしい。 ②病弱教育部門の高等部卒業後に向けた移行支援システムの確立とマニュアル化への取り組みは評価できる。今後も移行・復学システムの一層の定着に努めてほしい。	①「ともに進むサポーターズ部会」において交流及び共同学習のビジョンを共有し、年間計画の中に位置付け、できることを継続的に実施できるようになってきた。今後は中学部段階の交流も更にすすめていきたい。 ②移行支援のスケジュール表の作成により、関係機関を含め役割分担を明確にして、スムーズな移行支援ができるようにした。また、マニュアルの活用により速やかな転入事務手続きが可能となった。	①ICT の活用事例や交流等の地域連携の取り組みを、より具体的に保護者に伝えていくようにする。周知方法も工夫していくことで更に地域へと出ていく足掛かりとしていきたい。 ②移行支援システムのマニュアルを引き継ぎ、２名で対応することにより、どの教員でも転入時の事務手続きがもれなく実施できるようにしていく。
５	学校管理 学校運営	保護者、地域、関係機関等から「信頼される学校」をめざし、児童生徒が安全に安心して過ごせる教育環境を整備する。	①児童生徒のいのちと人権を守り、安全・安心で居心地のよい学校生活を継続・維持する。 ②教員が指導に精力を傾けられるよう業務改善を継続して進め、長時間勤務を是正する。	①常に子どもの視点に立ち、施設設備の点検や、訓練、研修に取り組み、各教員が「自分事」として課題を共有して種々の活動を行う。 ②地域人材の活用、定例会議での業務改善策の検討、業務マネジメント等を継続し些細なことでも工夫を共有し具体にしていく。	①児童生徒が安心して過ごせるよう「自分事」として課題を共有して種々の活動を行い事故の未然防止や安心な学校生活につなげられたか。 ②校内全部署、全職員が当事者として業務改善に関わり共有することで、具体的な改善方策を実施することができたか。	①次年度に向けたプール研修や緊急時個別対応マニュアルに沿った訓練を実施し、緊急時の対応を確認した。 ②地域人材の活用が定着しつつある。また、業務の効率化のため、マニュアル化やサーバー内の文書整理を進めている	①避難訓練の課題を、毎月のシェイクアウト訓練に活かし、改善していく。消防署の指導により次年度、火災の避難訓練を実施する。 ②会議時間の短縮や会議の充実につなげるために、会議の開催前に Teams を活用して情報共有を行うなど、長時間勤務を是正する、具体的な取り組みを進める必要がある。	①安全安心な教育環境の整備に努め、課題点が上がった際には Teams 等の情報ツールを活用して、速やかに情報共有を行い、改善策について周知し、課題を繰り超さないという校内の文化は、連携の良さとして評価できる。 ②地域主催の防災訓練にもぜひ参加してほしい。	①発作時の対応等緊急時の対応訓練を実施した。また、事故が発生した際には、速やかに再発防止策を検討し、校内で共有し再発防止に努めた。 ②Teams やアンケートフォームを使用して意見を集約したり、行事の評価を直接サーバーに入力することで、業務負担の軽減につなげることができた。	①ヒヤリハット事例の積極的な報告と共有を行う。また、遠足や校外学習など校外活動の際には実地踏査の際に危険個所の点検を必ず行い、事故を未然に防いでいく。 ②今後も新しいシステム等を活用し業務負担の軽減につなげていくとともに、引き続き業務内容の改善と精選を進めていく。